

弘前藩日記目録

(十一)

弘前藩政史研究会編

(延宝六年十一月)

十六癸未日 晴

1. 玄蕃を召し、今度御誕生の吉報次才江戸登の支度を命ず

2. 山中六左江門忌明御札

3. 左門登城

4. 又昌院より使者(明後晚料理遣さる田の口上)

十七甲申日 晴夜雨雷登

1. 式日暮合 2. 又渡寺より御守札

十八乙酉日 雨夜雷数発

1. 又昌院より使者 2. 未刻又昌院方へ御出

3. 又長野儀兵衛・原子吉左江門・兼田昌菴へ誓詞に

背く悪事有りとして斬罪申渡す

十九丙戌日 晴

1. 又昌院へ使者 2. 玄蕃へ使者(夙長尾舞)

3. 外記へ使者(腹痛の見舞) 4. 庄右江門村頼

5. 国上寺より御守札 6. 庄右江門へ京柿を進む

7. 御鷹の鴨を上る 8. 左門・次郎市登城

9. 金木村東手川に苗めおく黄鷹御覧

廿丁亥日 晴

1. 江戸へ飛脚 2. 江戸より飛脚到着

3. 今朝の追飛脚として中川小隼人組二人を遣す

4. 佐竹石京大夫使者瀬谷源五兵衛上下十五人到着

5. 右使者へ雪中太儀の趣を伝う

6. 暮に及び右使者を次太夫見廻る

廿一戊子日 晴

1. 昼時分外記宅にて又保田よりの使者と対面の由を伝

う 2. 又右対面の次才(九)

11. 又右使者への賜物(三)

14. 八兵衛・主膳・弥右江門・庄兵衛へ小袖下さる

15. 又又保田よりの使者と対面についての諸役

44. 御鷹の鴨を上る 45. 外記登城

廿二己丑日 晴

1. 又保田よりの使者へ返書

2. 又保田よりの使者登足 3. 式日寄合

4. 玄蕃夙長本復登城 5. 左門登城 6. 素庵・庄右

江門へ御手紙 7. 最勝院・百沢寺より御守札

廿三庚寅日 晴

1. 又又昌院・素庵・庄右江門を招き、一門、老中以

下参会し能を催す(四)

5. 11. 御能後の御料理(七) 12. 久昌院より御礼の使者 13. 久昌院へ使者 14. 御鷹の鴨を上る

廿四辛卯日 晴

1. 式日兵書講習 2. 橋雲寺より御守札

廿五壬辰日 晴

1. 江戸より罷脚下着 2. 仏殿にて祭礼

3. 4. 辰刻報恩寺へ仏参

廿六癸巳日 雨

1. 渡辺次太夫を召し、未春江戸御供を仰付く

2. 3. 外記、主膳へ病氣見舞の使者

4. 武兵衛登城 5. 長泉院へ、腫物見舞の使者

6. 7. 堀伝左衛門室、久昌院へ使者

8. 久昌院より使者

廿七甲午日 雨夜雪

1. 式日寄合 2. 左内登城

3. 外記、主膳病氣本復登城

廿八乙未日 晴

1. 恒例の諸御礼 2. 井尻吉太夫眼病本復の御礼

3. 公方様御吉祥の御祝儀例年の如く若殿様御拜領の内

先日の子脚にて遣す由報告

4. 辰刻北丸へ、この時向東御縁圓にて松前工藤忠兵衛

御目見、臨贈獸、煤麩、昆布を進上

5. 江戸より黒土刑部左衛門下着 6. 久昌院より使者

廿九丙申日 晴

1. 式日兵書講習 2. 久昌院へ使者

廿丁酉日 晴

1. 最勝院、百沢寺より御守札 2. 小山丸兵衛伴三

右江戸内儀有るによつて破々町横目へ越山状

延宝六戊午年十一月大

一戊戌日 雪

1. 2. 恒例の諸御礼

3. 5. 11. 寺社奉行、郡奉行、町奉行その他役替申渡し

12. 喜多村源八等へ未年の江戸御供を命ず

13. 巳刻北の丸へ 14. 泰庵へ文箱

15. 寺社中へ申渡し 16. 寄番御免申渡し

17. 星出雲八尾小姓として召出し 18. 湯治願許可

二日亥日 晴

1. 新役儀の誓詞 2. 式日寄合 3. 組頭の任命

4. 松前より罷歸る工藤忠兵衛へ青森御蔵米二十俵下賜

5. 久昌院より使者 6. 御鷹 7. 玄蕃敷布を進上

三庚子日 晴

1. 代官三上七郎右衛門惣領病死につき二男への惣領願

許可 2. 名替願許可

3. 神五右衛門病死、奥子二歳につき知行没取

4. 石郷岡右衛門相役の悪事を知らざるにつき知行没取

5. 鬼袋金左衛門病氣技隠居願許可

6. 寺社奉行御用なき節登城無用の旨の仰付け

7. 細工者花田左左江内目見申さず勤役の儀赦免

8. 鷹田屋を登す 9. 又昌院より使者

10. 最勝院・百沢寺・ス渡寺より御守札

11. 12. 素庵へ茶口切料理進呈について相伴役申付け

四辛丑日 晩

1. 式日兵書講習 2. 小知行の者病死、子なき故知行

没取 3. 千葉忠左江内上屋敷を松田五郎左江内へ

貸置く 4. 乳井抱左江内上屋敷を多賀野与兵江へ

当分貸渡す 5. 又昌院より使者

6. 報恩寺より御守札 7. 五兵江登城

五壬寅日 雨

1. 仏殿にて祭礼 2. 左内登城 3. 又昌院へ使者

4. 糟谷計南、暮に罷出づべき旨仰出す

5. 又昌院より使者 6. 玄番登城

六癸卯日 雪

1. 柳引孫次郎以下四人に御目付役を命ず

2. 前田名次右江内へ青森町奉行を命ず 3. 添田儀左

江内御所捕を進上 4. 庄右江内と対顔

5. 多賀野孫次兵江病氣につき御眼願

七甲辰日 陽夜雨

1. 柳引孫次郎ら誓詞 2. 式日寄合

3. 前田名次右江内誓詞 4. 伊左江内御番人常役のと

ころ四人辱番とす 5. 赤根沢鉢土横目任命

6. 小泊沖横目任命 7. 12月鉄炮定書改訂につき諸

役人への申渡しの竟

13. 外記登城 14. 巳刻北の丸へ

八乙巳日 雪

1. 九月分出金百七十五兩を登す 2. 大坂の者僅上申

候につき来春人夫差下したき由願の通り許可

3. 岡文左江内寺社奉行仰付けられるにつき郡奉行とし

ての役料百兩差上申渡さず由、願の通り許可

4. 庄右江内の江戸登り不許可

5. 右筆長内善兵江病死、子若年につき相続不許可

6. 歩行山崎織兵江他三名病人につき扶持切米を取放つ

7. 赤井御銀山人足百三十人加えたき由の願に對し、御

百姓中にて一日七分米一分にて雇うべき旨申渡す

8. 江白より飛脚 9. 昨日到着の御内書の諸書を登す

10. 又昌院へ使者 11. 五兵江登城

九丙午日 雪

1. 又昌院より使者 2. 左内登城

3. 同上寺・ス渡寺・最勝院・百沢寺・橘要寺より守札

4. 5. 中小姓頭、歩行頭等の任命

6. 5. 8. 10. 北丸へ、そのまゝ五兵江宅へ 9. 御鷹

11. 五兵江御礼のため登城

十丁未日 雪

1. 5. 4. 高屋権兵江、木村奎之助らの誓詞 5. 式日兵

書講習 6. 百沢寺より御守札 7. 五兵江登城

十一戊申日 晴

1. 北丸へ 2. 庄右征内対頒 3. 素庵より使者

4. 唐牛蓋右征門、櫛引孫次郎に城米御用のため来年大坂登りを命ず 5. 向宮勘右征門来春江戸御供の際

兵芝稽古したる願許可 6. 官館幕左征門へ来年の江戸御供を命ず 7. 乳井佐右征門煙の縁組願許可

8. とぎや甚六差上の相州綱太の刀を留置く

9. 松田清左征内他二名の上屋敷拜借許可

10. 染屋半四郎入替につき褒美として金五兩を賜わる

十二己酉日 賜

1. 式日寄合 2. 御銀山人足の飯米十一月より来年二月迄拜借の願許可 3. 左内登城 4. 御鷹

5. 喜多村源八へ菓子を遣す

十三庚戌日 賜

1. 北丸へ 2. 神宮寺より御守札 3. 七戸四郎右征内娘の縁組許可 4. 早野松右征内病氣のため扶持切

氷差上げたき願許可 5. 湯沢金沢より金二百十一文目差上ぐ 6. 喜多村源八、青木源兵征江戸にて

の知行米金子にて下され候分にて追鳥持場へ人出し

たき願不許可

十四辛亥日 贈

1. 仏殿にて祭礼 2. 式日兵書講習 3. 足田長左征内忌御免御礼 4. 袋官寺より御守札

十五壬子日 贈

1. 恒例の詣御礼 2. 北丸へ 3. 玄蕃、外記、左内

次郎市、主膳を召し、地方知行を来年より蔵本渡しとする旨申渡す 4. 5. 6. 年頭の御目見を長袴太刀目録にて勤むべき旨申渡す

7. 五兵征、次太夫病氣のため登城せす

8. 旅大工長左征門を金一枚三人扶持にて召抱ふ

9. 今十九日追鷹狩の旨役人中へ申渡す

10. 中畑与右征内を青森にて御用申付くべき旨許可

11. 御銀山御祝儀日以後十八日とすべき旨申渡す

12. 久渡寺、最勝院、攝雲寺、国上寺より御守札

13. 長泉院へ使者 14. 堀伝左征内内室へ使者

15. 16. 次郎市、左右征内登城 17. 外記、左内お召によ

つて登城 18. 19. 素庵へ鷹の小鴨進呈、御礼の使者

十六癸丑日 賜

1. 之旨院へ使者

2. 次郎市十九日発足につき十八日晚御料理下さる由

3. 次郎市留守中の組支配を主膳へ

4. 次郎市留守中の御部屋様治療を松山玄三へ申付く

5. 次郎市の江戸にての御目見先きの指示

6. 船頭及び水主迎えの者十七人昨十五日深浦出立の由

7. 先年取立ての小知行の組頭二十二人を当分月番の物

頭支配とすべき由申渡す

8. 三上善助娘の縁組許可 9. 鷹狩の際鷹場の若雑子、

雑狐にかまひ向敷き旨家中への融書の竟

10. 庄右征内、外記、左内々膳相伴

十七 甲寅日 晴

1. 次太夫忌御免登城
2. 長勝寺にて百助の法事、香奠白銀三枚、玄蕃御礼登城

4. 外記、左内、次郎市登城

5. 式日寄合

6. 厩町橋際にて捕えし無宿人を追放

十八 卯日 晴

1. 笠原八郎兵衛娘へ進藤十郎實名跡願許可

2. 前髪取許可

3. 藩士の跡式許可

4. 羽黒山在

5. 書役北村藤九郎の跡役一町田半六に

7. 渡辺五右衛門、小倉作左衛門忌御免

8. 例年の大沢小栗山にての雉子狩無用の旨申渡す

9. 榎方角左衛門へ御目付役を命ず

10. 5. 15. 次郎市へ御料理(六)

16. 御鷹

十九 辰日 晴

1. 在頭の使者として次郎市登足

2. 5. 9. 鹿戸兼平にての追鳥狩の寛(八)

廿 丁巳日 雪

1. 例年の如く献上の塩麴荷物を登す

2. 北丸へ

3. 5. 11. 塩麴の献上目録寛(九)

廿一 戌午日 雪

1. 5. 3. 乳井八幡館まいの鳥狩(三)

廿二 己未日 晴

1. 式日寄合

2. 久昌院より使者

廿三 庚申日 晴

1. 献上の雉子八十一を登す

2. 長尾岡左衛門の養子願許可

3. 求春差登す小知行について申渡す

4. 御誕生御吉左右の家中祝儀についての仰付け

5. 江戸より荷物到着

6. 葉玉院看寺、文渡寺より御守札

7. 外記、左内、五兵衛登城

8. 御鷹

9. 5. 13. 久昌院お出で、御料理(五)

14. 5. 24. 雉子献上の目録寛(十一)

廿四 辛酉日 晴

1. 式日兵書講習

2. 久昌院より使者

3. 久昌院へ使者

4. 庄右衛門登城

廿五 壬戌日 晴

1. 仏殿にて祭礼

2. 5. 7. 報恩寺へ仏参(六)

8. 津輕左京より蜜相進上

9. 5. 12. 久昌院廟参(四)

13. 長勝院、百沢寺より御守札

廿六 癸亥日 雨

1. 北丸へ

2. 橋雲寺より御守札

3. 庄右衛門より手紙

4. 蒔苗孫右衛門養子娘の縁組許可

5. 神忠左衛門他三名の名替許可

6. 榎方角左衛門の御目見伺い

7. 5. 9. 狩場の雉子の御料理相伴の寛

廿七 甲子日 晴

1. 式日寄合

2. 國上寺より御守札

廿八 乙酉日 雪

1. 恒例の諸御礼

2. 水本喜兵衛他三名の進目御礼

3. 山中六左衛門他四名の祝言御礼

4 莖原八郎兵衛徳十郎の初御目見 5 神又兵衛、
兼平理左江門の名替御礼 6 前髪取御礼

7 祝言御礼、 8 小山助八郎他十二名の初御目見

9 山屋村右江門他九名の名替御礼 10 北丸へ

11 大道寺次郎市老母へ使者、同御礼

12 玄蕃采種一宅進上 14 又昌院より進物

15 外記へ病忌見舞の使者

廿九丙寅日 雪

1 式日兵書講習 2 最勝院より御守札

3 御勘定者に工藤嘉左江門他二名を任命

4 轟藤弥次兵衛の隠居願、跡式願許可

5 武器奉行小納戸末月朔日より勘定仕るべき旨申渡す

6 膳奉行の料理の者への下知について 7 相伴の膳

の支度について指示 8 料理向入用の物を膳奉行

見届くべき旨指示 9 老中物頭物奉行の料理につ

いての指示 10 小性組茶直歩行茶坊主の料理に

ついての指示 12 江戸より飛脚

13 今月十三日久世出雲守奥様息女平産の報

地丁卯日 晴

1 御細工笹森伝三郎へ褒美白銀五枚

2 探足の小工師二名へ一人扶持を与え褒美白銀三枚を

賜ふ

3 上より能役者二名の贈につき町奉行へ申渡す

延宝六戊午年十一月 月番 盛岡 主膳
一戊辰日 晴

1 御座向において一門老中の御礼を受く

2 書院にて物頭物奉行以下例月の御礼 3 北の丸へ

4 江戸へ飛脚 5 又世出雲守奥様平産の祝儀寛

6 最勝院百沢寺橋要寺より御守札 7 御鷹の鴨進上

二日巳日 雪

1 式日守合 2 夕膳に半右江門他三名相仕

3 御鷹の小鴨進上 4 又玄蕃、外記登城

三庚午日 雪

1 青森町奉行代前田名次右江門の扶持につき申渡す

2 小納戸方の勘定について指示

3 家村ス左江門眼病にて求耳の御供赦免

4 松山玄三出精につき末并御供の隠棄物御免の申渡し

5 御山につき中小性二名に命じた件すべて唐牛与右江

門の差図に任すべき旨申渡す

6 北村武左江門の湯治願許可

7 膳屋甚六へ褒美の金子十両時服一を下さる

8 又昌院より使者 9 左門登城 10 素庵より使者

11 最勝院以下五山より御守札 12 御鷹の鴨進上

13 又素庵登城、料理を進む

四辛未日 雪

1 他回へ白銀出すこと停止の旨町中へ触れるべき旨申

渡す 2 北の丸へ

五壬申日 晩

1. 仏殿にて祭礼
2. 6. 長勝寺へ廟参(五)
7. 一輪山(報恩寺)より御守札
8. 佐内組派の百姓仁左江内十一月廿二日出火にて家賊類残らず焼失の由注進

六癸酉日 暁

1. 庄右江内対顔
2. 鳴海吉三郎姉他の縁組願許可
3. 傍島助八の前髪取、名替許可
4. 御鷹の鴨進上
5. 昨五日夜左比内村百姓甚三郎家焼失の注進
6. 7. 北の丸へ、主膳宅へ、主膳御礼登城

七甲戌日 暁

1. 式日寄合
2. 銀子拂底にのき他領へ出すこと停止の旨碇ヶ岡横目へ書状
3. 煇消煮八郎兵衛を町奉行の支配とする旨申渡す
4. 5. 主膳登城、主膳へ御料理

八乙亥日 雪

1. 左門登城
2. 北の丸へ
3. 正阿弥右兵衛の臂名跡願許可
4. 一昨日牛込村より搬上ぐ、褒美として米一俵
5. 江戸へ飛脚
6. 久渡寺、回上寺より御守札
7. 左門、半右江内、長左江内、有右江内登城

九丙子日 雪

1. 式日兵書講習
2. 小人岡村三九郎当夏道中にて病死、奥子なき故知行没取

十丁丑日 晩

1. 年男を次太夫勤むべき旨直に仰付く
2. 左門登城
3. 4. 久昌院と使者の往復
5. 五兵衛登城
6. 庄右江内対顔

十一戊寅日 暁

1. 久昌院より使者
2. 外記登城
3. 一町田逢殿助姉の縁組許可
4. 長内伝三郎の名替許可
5. 次太夫、御前にて慰斗目長袴上下舞領
6. 佐藤権右江内役儀の誓詞
7. 午刻西馬場へ
8. 源八他二名に夕膳相伴
9. 報恩寺内親明院へ盗入りし者を取上にて斬罪
10. 女房の弟を殺した中野目村伝三郎を籠屋にて斬罪

十二己卯日 暁

1. 式日寄合
2. 小佳目付今久右江内誓詞
3. 昨十一日金井面沢村御鷹百姓家火災類焼共に三軒笑失の注進
4. 左門登城
5. 御鷹の鴨進上

十三庚辰日 雪

1. 5. 10. 城中の煤掃の竟(十)
11. 久昌院へ使者
12. 久昌院より進物

十四辛巳日 暁

1. 仏殿にて祭礼
2. 5. 7. 長勝寺へ廟参(六)
8. 9. 久田宗悦・山村玄与の夫年の御供願許可
10. 目屋野沢、相馬、大和沢、虹貝、碇ヶ岡、三目内山の有木員数書を御前へ
11. 百沢寺 久渡寺より御

守礼 12.高宮大夫より神酒進上 13.式日兵書講習
十五午日 雪

- 1.恒例の諸御礼 2.加藤弥三郎の紐目御礼
- 3.進藤虎之助の初目見 4.傍島太次兵江の前髪取名
- 替・蒔苗弥右江内の際祝言の御礼
- 5.木村長蔵他十一名の初目名
- 6・7.七戸四郎右江内他四名の祝言御礼 8.北の丸へ
- 9.越中守の御名有る矢根を木立長兵征差上ぐ
- 10.正月門松城内御用の他は作事方より請松くべき旨を
申渡す

- 11.半海村弥左江内御進上、当年中二度につぎ水二俵を
賜う 12.文昌院への歳暮の御祝儀を進む
- 13.文昌院より使者へ右の御礼へ 14.北の丸へ
- 15.景勝院より御守礼 16.御鷹の小鴨進上

- 十六癸未日 雪
- 1.下向以後差上げた通守中の諸役人への箇条書、訴状
 - 控帳、籠帳、越山帳、計八冊を返さる
 - 2.同上寺、掃雲寺より御守礼 3.御鷹の小鴨進上
 - 4・5.素庵、庄右江内、玄蕃へ御鷹の小鴨を賜う(三)
 - 7.右御礼として庄右江内、玄蕃登城、素庵より使者
 - 8.西馬場で賽馬をなす

- 十七甲申日 晴
- 1.式日寄合 2.北の丸へ 3.西馬場で賽馬
 - 4.源八、玄三夕御膳相伴

5.先日廿四日江戸給の飛脚・台所荷物到着
十八酉日 雪

- 1・5.年頭の御礼につぎ面々へ申渡し(八)
- 9.山田彦兵征文昌院の年男を勤むるにつぎ役儀を賜う
- 10・13.尾太御山にて酒屋より厘上金差上げたき願許可
- (四) 15.玄蕃他五名へ料理を賜い自ら茶を點す
- 16.公方様御召の鬘斗目、小袖を玄蕃他五名へ賜う
- 17・23.能の記事(七)

- 十九丙戌日 晴
- 1.御鷹の鴨進上 2.文昌院より使者 3.北の丸へ
 - 4.鶴田村御町派伊右江内悪事あるにつぎ碓氷へ越山状
 - 5.中村直救家末松右江内不届につぎ同右
 - 6.先月廿一日江戸給の荷物到着(年頭の御用物)

- 廿丁亥日 晴
- 1.来未年の曆重表紙二通御前と文昌院へ
 - 2.暦一通宛、庄右江内他六名へ 3.外記登城
 - 4.一町田半六他二名へ年始儀式の給仕を命ず

- 廿一戊子日 雪
- 1.玄蕃、左門登城 2.文昌院より使者
 - 3.庄右江内封鎖 4.御鷹の重鴨進上
 - 5・6.料理人、家具の者、板向の者誓詞
 - 7.北村武左江内手付の溝江忠右江内へ三面二人扶持を
賜う 8.秋本重左江内への合力米の件、寢業を産
すべき由申渡す

9. 小人頭不足につき町奉行手付葛西源五兵衛へ申付く
10. 今次郎兵衛伴善九郎へ二兩人扶持を賜う旨申渡す
11. 前所帳面の貸方上納の儀につき町奉行へ申付く
12. 手廻組付の差上につき申渡す

廿二日 晴

1. 式日寄合 2. 久昌院より使者

3. 外記登城 4. 百沢寺より御守札

廿三日 晴

1. 出家中歳暮の祝儀のため登城 2. 素庵へ白銀時服を

3. 5. 17. 能の記事(十五) 18. 御鷹の鴨進上

廿四日 晴

1. 2. 床蓑村孫兵衛、築館村重助の知行差上げたき領

許可

3. 牧太多右江門支配佐藤三四郎の知行没取申渡す

4. 柏木村津右江門悪事有るにつき籠舎申付く

5. 黒土太門の跡式許可 6. 久昌院より使者

7. 玄蕃登城 8. 最勝院より御守札 9. 北の丸へ

廿五日 晴

1. 仏殿にて祭礼 2. 5. 我恩寺へ仏参(四)

6. 7. 之昌院と使者往復

廿六日 雪

1. 外記登城 2. 北の丸へ

3. 山口嘉津右江門、有海市右江門の區塞赦免を申渡す

4. 伊右江門へ正月分の賄銀請取りを命ず

5. 都合安兵衛他二名へ手廻子共並目見を申付く

6. 正月元日の太刀目録の扱いについて指示

7. 玄蕃夕膳相伴 8. 儀左江門、市郎左江門を召出す

廿七日 晴

1. 左江門登城 2. 本村新右江門へ金子十兩時服二を賜

う 3. 31. 郡奉行下役人、大工頭以下へ末々年下

向までの褒美を(二十九)

廿八日 雪

1. 恒例の諸御礼 2. 3. 庄右江門、玄蕃以下より歳

暮の祝儀を差上ぐ 4. 武左江門病後御礼

5. 5. 7. 赤田儀左江門他十五名へ上下小袖を賜う(三)

8. 最勝院より御守札 9. 玄蕃召出しにより登城

廿九日 雪

1. 北の丸へ 2. 百沢寺より御守札

3. 之昌院より使者 4. 玄蕃より御礼のため登城

5. 祝儀の儀式嘉例の如く行う。年男を渡江次太夫勤む

延宝七未年正月小

月番 盛岡 主膳

一丁酉日 雪

1. 5. 23. 正月行事(二三)

24. 須藤惣右江門病氣、太刀目録差上ぐ 25. 之昌院へ

二戌戌日 晴

1. 正月行事 2. 江戸へ飛脚 3. 5. 6. 正月の儀礼

三日 晴

13 正月儀礼 13 江戸より飛脚

14 13 申下刻、嘉例の如く諸初

町庚子日 晴

1、文昌院より使者 2、5、素庵登城

6、兵書講習 7、素庵より使者

五辛丑日 雨

1、5、6、長勝寺へ廟参 7、長勝寺より使者

六壬寅日 夜中風雨

1、5、3、正月儀礼 4、禪家の一宗孟流し下されまじき

旨申渡す 5、北の丸へ 6、西馬場へお出

七癸卯日 雪

1、5、12、七種の御祝儀 13、御膳廻の拍子組

14、5、13、後の食事に関連した記事

八甲辰日 雪

1、文昌院より使者 2、北の丸へ

3、長勝院より御守札 4、玄蕃ら登城

5、庄右江門お出 6、御鷹

九乙巳日 晴

1、5、8、正月儀礼 9、御鷹 10、兵書講習

11、12、庄右江門ら御礼に登城

十丙午日 晴

1、文昌院より使者 2、文昌院へ使者

3、与力の支配 4、文昌院へ年始の祝儀

5、文昌院より使者 6、申刻お帰る 7、御鷹

十一丁未日 晴

1、文昌院へ使者 2、文昌院より使者

3、5、8、例年の如く具足向き祝儀 9、5、14、手廻組の支配

15、留守層組頭を任命 16、旗奉行を任命

17、戒付足輕を任命 18、正月儀礼 19、例年の祝儀

20、御金奉行その他を任命 21、高倉五兵衛登城

十二戊申日 雪

1、手廻組引渡の儀 2、馬廻組引渡の儀

3、江戸より飛脚 5、大組拝領 6、麴子献上の

旨 7、御鷹

十三己酉日 晴

1、八幡にて吉兆を披く 2、5、4、御役の誓詞

5、6、肴物拜領の祝儀 7、文昌院へ使者

8、同人より使者 9、淡屋町より初菱喰献上、褒美を

十四庚戌日 雪

1、5、4、長勝寺へ廟参

十五辛亥日 晴

1、恒例の御礼後庄右江門御出、寸類 2、5、6、御礼

7、5、10、八幡宮へお参り 11、御供坊主は刀をさし申す

まじき旨 12、与力の勤務につき 13、長勝院の御守

十六壬子日 雪

1、江戸へ飛脚 2、稻桑頭様へ献上の鷹の鴨を登す

3、文昌院より使者

4、5、6、堀依左江門内室らへ鷹の鴨を下さる

十七癸丑日 晴

1、3、東照宮へお参り 4、式日寄合

5、久昌院へ使者 6、7、庄右内へ登城

8、五兵衛出でざる由

十八甲寅日 晴

1、5、22、年始御能仰つけられる 23、江戸より飛脚

十九乙卯日 晴

1・2、年始の御祝儀 3・4、久昌院へ使者

5、年始御祝儀 6、お供登りの者 7、御膳奉行の者

8、百派寺より御守札 9、北の丸へ

10、久昌院より使者

廿丙辰日 晴

1、留守中の銀山の勤めについて申渡す

2、湯治の許可 3、御機嫌伺いに玄番ら登城

廿一丁巳日 晴

1、5、8、神明宮へ参詣 9、庄右内へお出で

廿二戊午日 晴

1、式日寄合 2、北の丸へ

廿三己未日 晴

1、江戸へ飛脚 2、年頭の祝儀

廿四庚申日 雨

1、江戸より飛脚

2、敦賀佐渡屋敷右内門に領分より退出すべき旨申渡す

3、左京の奥様平座につき、祝いに登城

4、久昌院へ使者 5、玄番へ兼入通箱を遣わさる

6・7、久昌院へ重の内を遣上 8・16、寺院の訴訟事

件に對し処分 17、江戸より飛脚

18、若殿様より例年の如き太刀目録献上の由

19、公方様より若殿様御小袖など頂戴

20、九日より主殿病癒にかゝり快癒の由

廿五（天候記事方し）

1、祝儀のため庄右内へ登城

2、願参なし 3、左京より御書

廿六壬戌日 霽

1、江戸へ飛脚 2、目付役の誓詞

3、新規の御手廻子供の目見について申渡し

4、馬廻番頭の月並の御札について申渡し

5、縁組願の許可 6、北の丸へ 7、五兵衛登城

8、庄右内へ進物 9、久昌院へ進物

10、若殿中間の喧嘩而成敗

11、家中へ書付を以て融れた電

江戸への飛脚に對する用向依頼を制限

廿七癸亥日 晴

1、式日寄合 2、庄右内へお出で

3・5・6、素庵らへ鷹の小鴨を遣上 7、玄番登城

廿八甲子日 晴

1、恒例の諸御礼 2、高倉兵右内らの座る位置を指示

3、目付勤番を命ず 4、供俵願を許さず

5. 長勝寺へ僧中書付の儀につぎ、寺社奉行を派遣
6. 文昌院より使者 7. 北の丸へ 8. 玄蕃登城
廿九乙丑日 晦

1. 伊左征門の跡について申渡す 2. 長勝寺童酒の札
に落書し、墨塗りけた者あり、調査を命ず
3. 長勝院の御守札 4. 外記登城

延宝七年二月大

月番 渡辺次太夫

一丙寅日 雪

1. 5. 恒何の諸御礼 5. 文昌院より使者 6. 北の丸へ
7. 長勝寺耕春院華秀寺の出入の書付を寺社奉行へ
8. 前髪取 9. 小姓組の任命 10. 御隠居様番人の召
托について 11. 知行差上げ願の許可
12. 相続人幼少について相続分半減 13. 隠居跡式
14. 小人頭、甥の番代勤務をそのまま承認
15. 16. 相続願の許可

17. 与力の出銀軍用銀延引申付くべきこと

18. 与力の跡式について代替は其の頭次方とする

19. 隠居願の不許可 20. 縁組願の許可

21. 名替の許可 22. 江戸より罷脚 23. 若殿様の痘瘡

舞出 24. 公方様より若殿密柑など舞領

25. 舞領の密柑を殿様へ 26. 主殿の痘瘡軽快になつた

旨 27. 岡山様より主殿へ痘瘡の見舞

28. 同人様より白小袖一など下さる由 29. 鷹の小鴨

30. 主膳登城 31. 文昌院より使者

二丁卯日 雪

1. 江戸へ罷脚

2. 若殿様痘瘡故、舞領の祝儀のため老中ら登城

3. 庄右征門お出で 4. 文昌院へ使者 5. 式日寄合

6. 江戸より寄物 7. 役儀の誓詞

三戌辰日 晴

1. 相続の許可 2. 前髪取 3. 袖笛

4. 鷹匠の召連につぎ 5. お登りの道具につぎ

6. 柱言師等を差登すべき由、唐牛甚右征門へ申渡す

7. 外決面達に対し年貢の減免を申渡す

8. 文昌院へ使者 9. 右の御礼

四己巳日 晴

1. 町所奉行の任命 2. 作事場模目の任命

3. 長勝院らの御守札 4. 5. 左門ら登城

6. 北の丸へ

五庚午日 雪風

1. 五兵衛登城

六辛未日 晦

1. 江戸へ罷脚 2. 素庵へ使者

3. 庄右征門お出で対顔

七壬申日 晴

1. 銀山にて雪なてにつぎこめ罷連今四日相果候者の仕

末 2. 北の丸へ 3. 玄蕃ら登城

八 癸酉日 賜

1. 江戸より飛脚 2. 若殿様の疔瘡快癒に向つた由
3. 主殿の疔瘡も段々なおつた由
4. 酒湯の祝儀として連枝方より歩行頭まで登城
5. 8. 文昌院より使者(四)

九 甲戌日 賜

1. 江戸へ飛脚 2. 4. 主殿様 酒湯の祝儀
- の殿様より祝儀下された旨(八項目)
- 。主殿様へ御祝儀上の寛(四項目)

5. 12. 兼庵へ年始の料理進上

十 乙亥日 庵

1. 前髪取 2. 家来召連についての御定
3. 契所奉行の任命 4. 相続の許可
5. 7. 隨居様御台所の者を任命
8. 足輕登の儀について細切に登す由命す
9. 袖笛の許可 10. 藩士の病死 11. 国上寺の御守
12. 北の丸へ 13. 玄蕃ら登城 14. 鷹の鷹進上

十一 丙子日 賜

1. 宿麿について 2. 西馬場へ 3. 右内登城

十二 丁丑日 賜

1. 式日寄合 2. 江戸より飛脚
3. 若殿様御疔瘡御酒湯並はされ、祝儀拝領
4. 5. 右の御祝いととして玄蕃ら登城
6. 8. 文昌院へ使者(三)

十三 戊寅日 庵

1. 若殿様の疔瘡、酒湯召されたことにつき祝儀樽代上の寛(十七項目)

2. 殿様より被下物の寛(九項目)

3. 江戸で料理を下された旨 4. 文昌院へ祝儀

5. 北の丸へ 6. 夕御膳の相伴者

十四 己卯日 賜

1. 袖笛の許可 2. 名替の許可

3. 留守中の中小姓への差回役を命す

十五 庚辰日 庵

1. 8. 恒例の諸御礼 9. 百石加増の許可(奉公能き

ため) 10. 小姓組の御礼

11. 12. 三の郭の夜廻りを任命 13. 鷹の真鷹進上

十六 辛巳日 庵

1. 小姓組の誓詞 2. 湯治の暇

十七 壬午日 庵

1. 式日寄合 2. 最勝院らの御守礼

十八 癸未日 庵風

1. 軍用金を年内国入について仰出

2. 役儀無事勤務の者に加恩(十七人)

十九 甲申日 賜

1. 若殿様祝儀の能仰せつけらる

参列者、番組、その他演能兩係記事(二十八項)

廿 乙酉日 卯刻雨及巳刻庵

1. 鶴川常雲弟子召連れて登る、江戸で一人扶持給与

2. 3. 台所役の晴について 4. 北の丸へ

4. 玄蕃ら登城

廿一丙戌日 晴

1. 草履取りの知行より切米への変更願

2. 晴扶持の給与を申渡す 3. 縁組の認許

4. 5. 文昌院より箱有進上 6. 11. 文昌院へ、会食

御膳過の御能祖あり、南連記事(三項)

廿二丁亥日 晴

1. 式日寄合 2. 北の丸へ

廿三戊子日 晴

1. 詩苗清三郎の扶持切米について仰出

2. 兼馬の稽古につき申渡す 3. 館林宰相の許で奉公

していた者の配慮 4. 最勝院のお守札

5. 文昌院より筆の内、進上 6. 御機嫌うかがいに左

右江戸お出で 7. 鷹の麦喰を進上

8. 玄蕃ら登城 9. 江戸へ飛脚

廿四乙丑日 晴風

1. 玄蕃ら召出され、誕生祝い 2. 御城の留守居役を

任命へ玄蕃の代り 3. 主膳の相談役について

4. 留守中の条目読み上げ 5. 納戸役を任命

6. 留守中の警備、城内における指揮について仰出

7. 当分の支配について仰出 8. 左内ら登城

9. 北の丸へ 10. 橋雲寺の御守札 11. 外馬場へ

廿五庚寅日 晴

1. 3. 報恩寺へ仏参 4. 素庵より使者

5. 町人の救免について町奉行へ申渡す

廿六辛卯日 晴

1. 明日の能見物を仰せのけられた面々、御札に登城

2. 7. 同席者 3. 素庵へお出かけ 4. 鷹

廿七壬辰日 晴

1. 2. 辰上刻より能

参列者、番組、中入、宴席など南係記事二二項

廿八癸巳日 晴巳午刻雨

1. 恒例の諸御礼 2. 7. 江戸御供の面々へ仰渡された寛

8. 10. 江戸へお供の者の準備その他南係記事

11. 北の丸へ 12. 14. 次郎市登城

廿九甲午日 晴五刻雨

1. 鐘屋の江戸での細工稽古を許可

2. 狂言師の江戸上りを許可 3. 名替の許可

4. 5. 病氣回復や特別事情によるおくれでの江戸登り

を認む 6. 目見なき者の相続を認めず

7. 勤番差引

三十未日 雨

1. 2. 病氣中の役銀差上げについて額出

3. 隠居願 4. 役銀差上願 5. 隠居願

6. 中村春庵父子と山田清左江戸の養の書付について